

自分の声が出せる

地域づくりを



巻頭インタビュー

区長会長 × 地域おこし協力隊

市区長会長の中横卓幸さんと、地域おこし協力隊として地域づくりの支援を行う土屋陽子さんに、市内 83 区が抱える課題と目指すべき将来像についてそれぞれの考えを聞きました。

● Profile 土屋 陽子

安曇野市地域おこし協力隊員。東京の企業で 20 年ほど働き、昨年 6 月から協力隊員として地域づくり課で市区長会の事務局を務める。上伊那郡辰野町出身。

● Profile 中横 卓幸

豊科地域真々部区長。本年度は安曇野市区長会長を務める。区に関わったのは地区公民館の役員になったことがきっかけで、現在は区長のほか民生児童委員も務めている。

特集◎

区のこれまでとこれから

重要なのは、

区民の声を聞くこと



区加入の課題

**中横** 近年、市内に団地が造成されまじまった世帯の皆さんが市に転入されましたが、比較的若い世代が多く、区加入金や募金などへの理解が得られにくいケースもあるようです。若い人からは仕事が大変で地域の会議に参加する余裕がないという声も聞きます。区への加入は強制できないため、勧誘では理解を得られた人に入っていないだけで、今後はそういう声も入らなくても困らないという声もあります。しかし、今はそうだとすると、いざという時に顔の見える関係が大切になります。

いざという時のために

**土屋** 台風 19 号で被災した飯山市へ行かれた方から聞いた話ですが、ボランティアセンター開設当初は支援要請が上がってくる自治会は限られていたそうです。要請が多い自治会では、区役員が自発的に歩いて各家庭の被害状況や支援の必要性を確認し、自分たちでできることは行い、できないことはセンターへ支援を要請していたそうです。

**中横** 役員の率先した行動が大き

お互いのプライバシーも配慮しながら、ほどよい「距離感」を持つことが大切と感じています。

できることを地道に積み重ねる

**土屋** 会長は、83 区がどんな区になっってほしいと思いますか。

**中横** 最初から高望みをせず、地道にできることを積み重ねていくことだと思います。市区長会ではこれまで「区マニュアル」「コミュニティ・マニュアル」「区加入促進マニュアル」などを作成し区が取り組むべき項目を整理してきました。マニュアルを生かしていくためには、いろんな世代の声を吸い上げ、区が取りまとめ、予算化・具現化していくことだと思います。

**土屋** 自分の声が出せる環境づくりは大切ですね。声が届いて実現できれば、そこに参画していくこととなります。先輩方が残してくださったマニュアルは、各区の実情に合わせて活用していきたいですね。

**中横** 高齢化が進む中で、市民の皆さんが安心して暮らし続けるために、一人ひとりがコミュニティの一員として声を出し、活動できたら嬉しいですね。

市区長会では区の目指す姿を実現するため、さまざまなマニュアルを策定してきました。



く左右しますね。そして何よりそこに住むすべての人が区に関わり行動することが大切だと思います。

隣近所の程よい距離感

**中横** 真々部区では、地域の高齢化が進む中で、区役員が決めたトッパダウン型の事業にはあまり参加をいただけません。そのため、区民から多くの要望をお聞きし、それを区が具現化する仕組みを構築しています。そうしたボトムアップ型の事業を行うことで、お互いの助け合いや支え合いの意識が生まれています。特に隣組単位のコミュニティが基盤となり、日常的な見守りが行われています。

**土屋** 個人情報保護が取りざたされている昨今、そのような隣近所や隣組など顔の見える関係づくりが最も大事だと思います。ただし、



**土屋** 私は区長会の事務局、地域おこし協力隊として活動する中で、住みよい地域のため本気で向き合い取り組まれている方々がたくさんいることを知りました。私の活動を通じて多くの皆さんに区の活動を知っていただくと共に、安曇野市に住んで良かったと思える地域づくりを目指していきます。

現在区に加入していないけれど区に関心がある人、加入を希望したいがどこに相談したらよいか分からない人など、いつでも私にご相談ください！

